



明日、起こるかもしれない! 南海トラフ巨大地震

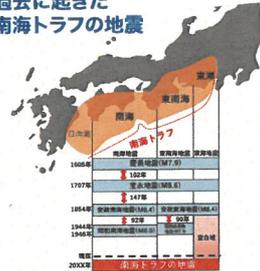
徳島県庁 (左: 徳島県庁 東北地方整備局委託) 撮影 徳島大学名誉教授 中野 昌 (徳島県南海トラフ巨大地震被害想定検討委員会委員)

多くの尊い命が失われ、甚大な被害をもたらした東日本大震災。本県においても、南海トラフ巨大地震の発生が懸念されています。明日起こるかもしれない南海トラフ巨大地震に備えて、まずは地震や津波について知り、今からできる備えを始めてください。日頃からの心構えが、あなたの命、家族の命を守ります。

南海トラフ巨大地震はいつ起こる?

今後30年以内の発生確率は、60%～90%程度以上!
※令和8年1月1日時点

過去に起きた南海トラフの地震



南海トラフの地震は、概ね100年から150年の周期をもって繰り返し発生しており、これまで徳島県に大きな被害をもたらしてきました。前回の昭和南海地震が1946年(昭和21年)に発生しており、今世紀前半にも発生する可能性があります。「南海トラフ巨大地震」は南海地震の震源域を含む広い範囲で発生する最大クラスの地震・津波を想定したもので、発生すれば広範囲に及び甚大な被害をもたらすことが考えられます。

解説

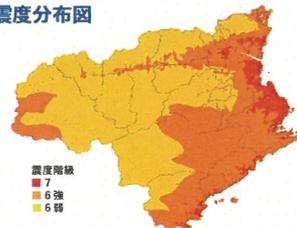
昭和南海地震は1946年12月21日午前4時19分頃に発生したマグニチュード8.0の地震でした。徳島県内では死者数202人、全壊家屋602戸、津波による流失413戸など大きな被害をもたらしました。この地震による揺れは、沿岸部で震度5、内陸部で震度4、余震は月内に有感55回、無感230回が観測されています。



「白鷺町、海岸に上がった船、船防の高さは水深から約2m」(徳島庁ホームページより)

南海トラフ巨大地震はどんな地震?

震度分布図



液状化危険度分布図



南海トラフ巨大地震が発生したときに、想定される揺れの大きさは、震度6弱から震度7で身動きがとれない揺れが長く続くと考えられています。この非常に強い揺れによって、建物が倒壊したり、道路や橋などの土木構造物が被害を受けたりします。さらに、そこに巨大な津波が襲ってくるほか、液状化や火災などの災害を同時に受ける「複合災害」となることが想定されています。揺れを感じたら、頭を守り、机の下など頑丈な場所に隠れるなど、まずは身を守る行動をとりましょう。

M-2

徳島県津波浸水想定



「徳島県津波浸水想定」について

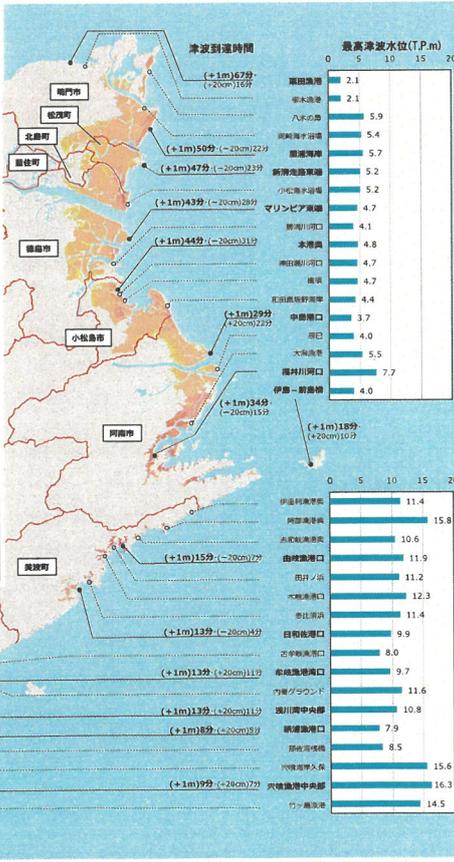
- 最大クラスの津波が悪条件下※において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)です。
- 過去の津波や今後発生が想定される津波から設定したもので、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、津波の第1波ではなく第2波以降に最大となる場所もあります。
- 浸水域や浸水深は、地面の凹凸や建築物等の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

※悪条件下(沿岸構造物の耐震評価がない場合の条件)

- 海岸・防波堤(コンクリート構造物)
 - 揺れ・液状化により地震発生と同時に破壊する。
- 堤防(盛土構造物)
 - 揺れ・液状化により地震発生と同時に高さが地震前の25%に沈下する。
 - 津波が堤防を乗り越えたら高さを0%にする。



浸水深[m]	津波の到達予想時間について
20.0～	●津波到達時間(+1m) 最新より遅延において、最新の値に2分程度余裕を確保する必要がある
10.0～20.0	●津波到達時間(+1m) 最新より遅延において、最新の値に2分程度余裕を確保する必要がある
5.0～10.0	●津波到達時間(+1m) 最新より遅延において、最新の値に2分程度余裕を確保する必要がある
3.0～5.0	●津波到達時間(+1m) 最新より遅延において、最新の値に2分程度余裕を確保する必要がある
1.0～3.0	●津波到達時間(+1m) 最新より遅延において、最新の値に2分程度余裕を確保する必要がある
0.5～1.0	●津波到達時間(+1m) 最新より遅延において、最新の値に2分程度余裕を確保する必要がある
0.3～0.5	●津波到達時間(+1m) 最新より遅延において、最新の値に2分程度余裕を確保する必要がある
～0.3	●津波到達時間(+1m) 最新より遅延において、最新の値に2分程度余裕を確保する必要がある



津波を知ろう!

海の底で大きな地震が発生すると、海床が上下に変動し、その動きが海水に伝わり津波が発生します。



●津波の速さと高さ
津波の速さは風によって決まります。津波の源に近いところは速く、遠いところは遅くなります。津波の高さは、遠くなるにしたがって高くなります。

- 海岸に近づくほど急激に高くなります。
- 津波の伝播速度は非常に速く、見てから逃げるのでは間に合いません。
- 津波は「引き」から始まるとは限りません。「潮が引いたら逃げればよい」というのは大きな間違いです。
- 津波の力は非常に強く、高さ20~30cm程度の津波であっても速い流れに巻き込まれるおそれがあります。
- 遠の奥や岬の先端など沿岸の地形の影響により、局所的に高くなる場合があります。
- 津波は繰り返し襲ってきます。後から来る津波の方が高くなることもあります。
- 広い範囲の沿岸に津波が到達し、津波が半日や1日以上継続することもあります。

津波からはとにかく避難!

津波から身を守るためには、避難が第一です。避難行動がとれるよう以下のことに注意しましょう。

「早く・近くの・高いところへ」

津波避難のタイミング

- ▶海岸で地震の揺れを感じたら「津波警報・注意報」を待たずに
- ▶地震の揺れを感じなくても「津波警報・注意報」が発表されたら

直ちに避難!

避難する(した)際の留意事項

- ▶周囲の方にも声をかけて一緒に避難
- ▶安全が確認(避難指示が解除)されるまでは、避難場所から帰らない



穴蔵津波避難タワー(洞陽町穴蔵)

津波に関する統一標識

- 津波避難ビル
「津波に対しての安全な避難場所(津波避難ビル)」の情報を表示。
- 津波避難場所
「津波に対しての安全な避難場所(高台)」の情報を表示。
- 津波注意
地震が起きた場合、津波が襲来する危険のある地域を表示。

「津波でんてん」とは?

津波被害が多い3県(東北)地方で「津波起きたら命でんてん」と伝えられました。これは「津波が起きたら家族が一緒にいなくても気にせず、でんてんばらばらに高所に逃げ、まずは自分の命を守れ」という意味です。この教訓は東日本大震災でも活かされ、岩手県釜石市では、小中学生がためらわずに高台へ避難したことで大けがが避けられました(釜石の奇跡)。この教訓に基づき、まずは命を守る行動を取りましょう。

「津波警報・注意報」とは?

気象庁は、津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後約3分を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。津波警報・注意報を発表する場合は、予想される津波の「最大波の高さ」と最も早い津波の第一波の「到達予想時刻」の情報を発表します。

M8を超える巨大地震の場合



- M8を超える巨大地震の場合、正確な規模の規模をすぐに把握できないため、最大津波波高をもとに、津波警報・注意報を発表します。
- 最初に発表される大津波警報や津波警報は予想される津波の高さを「巨大」や「高い」という言葉で発表して津波警報で伝えることを示します。その後、正確な規模の規模が把握でき次第、津波警報・注意報を発表し、予想される津波の高さも数値で発表します。

正確な地震の規模がわかった場合

分類	予想される津波の高さの区分	発表される高さ
大津波警報	10m~	10m
	5m~10m	10m
	3m~5m	5m
津波警報	1m~3m	3m
津波注意報	0.2m~1m	1m

- 予想される津波の高さを「1m~3m:5m~10m:10m以上の5段階」で発表します。
- 例えば、3~5mの津波が予想された場合は「大津波警報」が発表され、「予想される津波の高さは5m」と発表されます。

徳島県南海トラフ巨大地震被害想定

住まいの地震対策や日頃からの避難訓練など、県民の皆様一人ひとりが事前対策に取り組めば、被害は確実に軽減できます。

被害想定の詳細はこちら
(PDF・安のどくしま)



助かる命を助ける

直接死者数: 21,700人 ※最悪のケース(冬・深夜の場合)

住まいの地震対策は大丈夫?

全壊・消失棟数: 81,100棟
被害想定コース(冬・夕方の場合)

1981年(昭和56年)5月以前に建築された木造住宅は、これまで地震による強い揺れで多く倒壊しています。2000年(平成12年)5月以前に建築された木造住宅は、耐震性能を満たしていないおそれがあり、倒壊する可能性があります。また、強い揺れによって家具が転倒・落下し、出入り口がふさがれ逃げづらくなるおそれもあります。

被害軽減効果の試算 (単位:人)

合計	揺れ	急傾斜	津波	火災
21,700	3,500	40	18,000	150

住まいの地震対策

合計	揺れ	急傾斜	津波	火災
43%	484%	42%	42%	42%
14,900	570	40	14,200	110

※削減率 100%の場合

津波からの早期避難

合計	揺れ	急傾斜	津波	火災
46%	570	40	1,500	110

※削減率 100%+早期避難率 100%の場合

避難について考え、備えよう!

- 避難場所を確認しよう
「防災マップ」や「ハザードマップ」を確認しましょう。
※津波や洪水などの災害の発生によって避難場所が変更になります。
- 避難経路を歩いてみよう
避難は徒歩が原則です。避難場所までの道を歩いたり自転車を走らせたり、倒れそうな電柱やブロック塀などを確認しましょう。発災時には、液状化や強い揺れによる道路の崩壊、道路の断絶で通れなくなるおそれがありますので、避難経路は複数確認しましょう。
- 地域や職場で避難訓練をしよう
地域や職場で日頃から避難訓練を行うとともに、高齢者など要配慮者の避難訓練についても話し合っておきましょう。
- 家族で話そう「防災のこと」
家族間の連絡方法や自宅や職場からの避難場所・避難経路などを事前に家族で話し合っておきましょう。

助かった命をつなぐ

災害関連死者数: 1,000人~2,000人 ※最悪のケース(冬・夕方の場合)

避難所QOLの向上

助かった命をつなぐため、避難所における「TKB(トイレ・キッチン・ベッド)」やトイレなどの設備を整えるとともに、避難所となる学校の体育館に空調を整備するなど、市町村と一体となって、避難所QOLの向上に取り組んでいます。

備えよう、家庭の備蓄!

電力 停電率: 99% | 水道 断水率: 87% | 下水道 処理率: 84%

通信 不通率: 99% | ガス 停止率: 100%

※被災直後の場合

※電気や水道、ガスなどのライフラインが止まった場合に備えて、飲料水や保存の効く食料などを確保し、避難所へ持ち込んでおくことが大切です。また、災害時には断水や下水配線の損傷によりトイレが使えなくなることがあります。トイレを複数回に分けて入れ替えるなど必要に応じて、事前にトイレの確保(入浴スペース確保)などの対策を講じておくことが大切です。

「地震保険」に加入していますか?

地震保険は、あなたや家族の生活を支えるために不可欠なものです。被災後の生活を支える経済的負担を軽減し、被災後にも安心して暮らしましょう。

●地震や津波、液状化などによって建物や家財が受けた損害(火災・倒壊・損壊・埋没・流失)

地震保険の加入に関する情報は、お近くの損害保険代理店または損害保険会社です。

住宅再建にはこんなに費用がかかります

これだけで、●設計費 ●建築費 ●付帯費用など、住宅再建にはかなりの費用がかかります。災害後は日本文化財の復興。災害後は日本文化財の復興。災害後は日本文化財の復興。

災害時に最新の情報を入手して命を守る!

緊急速報は、災害発生時に最新の情報を入手して命を守るために重要です。

●緊急速報: 地震発生時に最新の情報を入手して命を守るために重要です。

●安心とくしま: 「安心とくしま」アプリをダウンロードして、最新の情報を入手して命を守るために重要です。

●各種SNSでも防災情報を発信しよう! 防災情報や災害発生時の最新情報を入手して命を守るために重要です。